

- 佐倉市では、佐倉里山自然公園の維持管理を担っている活動団体の高齢化が進行しており、将来の担い手確保が課題となっている。
- このため、里山管理等の講座やチェーンソー等の実習等を通じた人材育成の取組として佐倉里山大学の運営を実施。

事業内容

佐倉里山大学運営等業務委託

「佐倉里山自然公園整備基本構想」及び「佐倉里山自然公園グリーンインフラアクションプラン」に基づき、佐倉里山自然公園を拠点とした維持管理を担う人材育成を目的として、佐倉里山大学を運営する。

【事業費】3,229千円（うち譲与税3,229千円）

【実績】2学年合計の数値

座学講座の実施 全10回（刈払機取扱作業安全衛生教育を含む。）

実技講習の実施 全7回（林業・木材製造業労働災害防止協会での講習を含む。）

取組の背景

- ・かつては、農林業が営まれる中で里山や谷津などの自然環境は維持・保全されてきたが、現代では生活様式の変化により、管理を放棄された里山が増え、景観の悪化や竹林の拡大などの様々な課題を抱えている。これまでは里山の維持管理を担っていた市民団体も数多くあったが、高齢化により、将来の担い手確保が課題となっていた。



（座学の様子）



（教育講習の様子）



（伐木玉切りの様子）

工夫・留意した点

- ・刈払機を使用する作業の安全を確保し、かつ、刈払機取扱作業者に対する振動障害を防止するため、当該作業に従事する者に対し、千葉県森林組合による教育講習を実施した。
- ・伐木の仕組みやチェーンソーの危険性について、専門家を講師に招き、樹木処理の体験会を実施した。また林業・木材製造業労働災害防止協会による教育講習を実施した。

取組の効果

- ・佐倉里山大学を運営し、里山の維持管理を担う人材を育成することにより、活動団体の世代交代を促進し、また、里山の維持管理に関わり、身体を動かすことにより、心身の健康の推進やウェルビーイングの向上が図られる。
- ・里山大学を受講した後には、専門的な知識をもったリーダーとして、各地域の森林等の里山保全に取り組んでいく。

基礎データ

①令和7年度譲与額：23,632千円		②私有林人工林面積(※1)：623ha	
③林野率(※1)：18.1%	④人口(※2)：163,859人		⑤林業就業者数(※2)：4人

※1：「2025農林業センサス」より、※2：「R7国勢調査」より

- 佐倉市では、佐倉里山自然公園の維持管理を担っている活動団体の高齢化が進行しており、将来の担い手確保が課題となっている。
- このため、里山管理等の講座やチェーンソー等の実習等を通じた人材育成の取組として佐倉里山大学の運営に必要な備品を購入。

事業内容

佐倉里山大学運営備品購入

佐倉里山大学の運営に必要な、チェーンソーや刈払機などの備品を購入する。

【事業費】990千円（うち譲与税990千円）

【実績】刈払機（ガソリン式）2台、チェーンソー（ガソリン式）1台、樹高測定器 1台、キャリアバッグ（チェーンソー収納用）1台、コンビネーションレンチ 1台、万能ツール 1台、クリアリングソー 1台、ブロワー 1台、エアダスター 1台、ハンディソー 1台、インパクトドライバー 1台、リヤカー 1台、折りたたみ式コンテナ 1台

取組の背景

- ・かつては、農林業が営まれる中で里山や谷津などの自然環境は維持・保全されてきたが、現代では生活様式の変化により、管理を放棄された里山が増え、景観の悪化や竹林の拡大などの様々な課題を抱えている。これまでは里山の維持管理を担っていた市民団体も数多くあったが、高齢化により、将来の担い手確保が課題となっていた。



（樹高測定器）



（ブロワー）



（ハンディソー）

工夫・留意した点

- ・購入した備品を里山大学の実習のみで使用するのではなく、里山大学の現役生が実習以外での練習や佐倉里山自然公園等での作業に使用できるよう、貸出制度を創設した。
- ・また、令和6年度に購入した備品を踏まえ、令和8年度以降里山大学の卒業生に佐倉里山自然公園等で除草作業等を行ってもらうために必要だと想定される機材を購入した。

取組の効果

- ・佐倉里山大学を運営し、里山の維持管理を担う人材を育成することにより、活動団体の世代交代を促進する。また、里山の維持管理に関わり、身体を動かすことにより、心身の健康の推進やウェルビーイングの向上が図られる。
- ・里山大学を受講した後には、専門的な知識をもったリーダーとして、各地域の森林等の里山保全に取り組んでいく。

基礎データ

①令和7年度譲与額：23,632千円		②私有林人工林面積(※1)：623ha	
③林野率(※1)：18.1%	④人口(※2)：163,859人	⑤林業就業者数(※2)：4人	

※1：「2025農林業センサス」より、※2：「R7国勢調査」より

- 佐倉市では、佐倉里山自然公園内畔田谷津において、散策路に倒木の恐れのある樹木が散見されることから、市民利用のある里山の安全性を確保しつつ、谷津の機能を維持することが課題となっている。
- このため、谷津斜面林における樹木の状態確認並びに危険箇所等の把握に努め、散策に訪れる人々の安全を確保する取組を実施。

事業内容

畔田谷津斜面林整備事業

佐倉市下志津地先畔田谷津において、斜面林にて放置され傾斜した樹木や、市民の通行のある観察路沿いの倒木・落枝の危険のある樹木を伐採・剪定する

【事業費】869千円（うち譲与税869千円）

【実績】観察路沿いの倒木・落枝の危険のある樹木の伐採を行った。

取組の背景

- ・畔田谷津は、市民協働による里山保全事業によって整備されており、生物多様性の豊かな場として、自然観察や散策に利用されている。
- ・散策路において、枯木等の倒木や落枝の危険のある樹木が点在している。



（伐採前）



（伐採後）

工夫・留意した点

- ・現地確認をもとに、専門的知識を有している造園業者からのアドバイス等を参考にしながら、仕様書や設計書の作成、伐採等樹木の選定を行った。
- ・散策路に支障のない伐採手法や発生材の残置方法について、委託業者との打合せを実施した。

取組の効果

- ・来訪者の安全確保並びに倒木被害の未然防止を図ることができた。
- ・枯木等の間伐により、更新による斜面林の機能の維持・再生が期待できる。
- ・間伐によって、斜面林から散策路にかけて日当たりや見通しが良くなり、市民利用のある里山として良好な環境を創出することができた。

基礎データ

①令和7年度譲与額：23,632千円		②私有林人工林面積（※1）：623ha	
③林野率（※1）：18.1%	④人口（※2）：163,859人	⑤林業就業者数（※2）：4人	

※1：「2025農林業センサス」より、※2：「R7国勢調査」より

- 佐倉市では、「いやしの里山・清水台」の樹林において、多様な林床植物が生育する里山林としての機能を再生させ、生物多様性の向上を図るとともに、市民の憩いの場を創出することが課題となっている。
- このため、土地内における樹木の状態確認並びに危険箇所等の把握に努め、散策に訪れる人々の安全を確保する取組を実施。

□ 事業内容

いやしの里山・清水台樹林整備事業

いやしの里山・清水台の樹林内において、間伐及び市民の通行のある場所の支障木や倒木・落枝の危険のある樹木の伐採・剪定を行う。

【事業費】678千円（うち譲与税678千円）

【実績】樹林内の倒木・落枝の危険のある樹木の伐採を行った。

□ 取組の背景

- ・いやしの里山・清水台は、多様な林床植物が生育し地下水を涵養する里山林であり、その機能の維持向上が課題となっている。
- ・樹林において、枯木等の倒木の危険のある樹木が点在している。
- ・住宅地に隣接する里山林であることから、風倒木等による被害を未然に防ぐ必要性が高い。



（伐採前）



（伐採後）

□ 工夫・留意した点

- ・現地確認をもとに、専門的知識を有している造園業者からのアドバイス等を参考にしながら、仕様書や設計書の作成、伐採等樹木の選定を行った。
- ・住宅地及び道路に隣接する樹林であることから、林床への日当たりに加えて、周囲からの見通し及び風通しを考慮して伐採木を選定した。

□ 取組の効果

- ・倒木や落枝の危険のある樹木を伐採したことにより、来訪者や周辺施設の安全確保を図ることができた。
- ・間伐により、鬱蒼としていた樹林から、林床に日光が入るようになり、生育植物の多様性の向上が期待できる。
- ・里山林として整備を継続し、森林機能の維持向上に取り組んでいく。

◇ 基礎データ

①令和7年度譲与額：23,632千円		②私有林人工林面積（※1）：623ha	
③林野率（※1）：18.1%	④人口（※2）：163,859人	⑤林業就業者数（※2）：4人	

※1：「2025農林業センサス」より、※2：「R7国勢調査」より

- 佐倉市では、第2次佐倉市環境基本計画における重点プロジェクト「谷津保全を継続する仕組みづくり」の一環として、市内の自然環境で特に重要と考えられる谷津の保全活動に参加する人材育成が課題となっている。
- このため、保全活動に参加する者が安全に刈払機を扱えるように、刈払機講習を実施。

□ 事業内容

里山保全支援（刈払機講習）

佐倉市役所において、外部から講師を招き、刈払機を扱う者が安全に刈払機を扱えるように講習会を実施。

【事業費】132千円（うち譲与税132千円）

【実績】刈払機講習を実施した。

□ 取組の背景

- ・市民協働で管理をしている畔田谷津などの里山では、植生や環境に合わせた草刈りを行うことで生物多様性を保全している。
- ・刈払機に起因する人身事故も、全国的に時折発生している。
- ・安全かつ継続的に作業を続けていくために、今一度刈払機の正しい使い方を認識する必要がある。



刈払機講習会の様子

□ 工夫・留意した点

- ・里山保全活動に参加する市民がより安全で効率的な作業ができるよう、現地での呼びかけやメール等での周知を積極的に行った。
- ・実際の機具を用いた説明等を行い、活動において実践しやすい講習となるよう心掛けた。

□ 取組の効果

- ・普段刈払機を使用しない活動者も参加するなど、里山保全に従事する活動者の作業能力が向上した。
- ・機具の操作からメンテナンスまで含めた講習を実施したことにより、里山保全ボランティア等の活動において、安全性の向上と作業の能率化が期待できる。

◇ 基礎データ

①令和7年度譲与額：23,632千円		②私有林人工林面積（※1）：623ha	
③林野率（※1）：18.1%	④人口（※2）：163,859人	⑤林業就業者数（※2）：4人	

※1：「2025農林業センサス」より、※2：「R7国勢調査」より